

論説 講評

岡島 成行

優秀賞になった御園生さんは温暖化問題を正確にとらえており、よく勉強していることがうかがえました。特に日本政府が率先して温暖化防止に取り組むべきと論じているところが鋭い。鳩山前首相が2050年までに二酸化炭素の排出量を25%削減するという国連での演説を支持しながら日本人としての心構えを説いているところには感心させられました。さらに、人々の意識改革が大切だとして、啓蒙活動、環境教育に力を入れるべきであり、若い世代に訴えるためには視覚的に訴える必要があると主張している。これも本質的な指摘であり、正攻法の論理を展開している。文章の切れ目が混乱している部分があり、改行した方が良いところが数か所あったが、その点を改善すればさらに説得力が増したと思います。

北田さんは様々な場面を想定し、深く考えた論文でした。しかし、論拠が特定の資料に頼った傾向がみられ、さらに広く研究する必要があると思います。将来への希望や進むべき道筋を自分なりに提示しているところが頼もしい。これからが楽しみです。

星崎さんは自身の経験をもとに独特のタッチで書いてくれましたが、ややエッセイ風で、論説としては感情移入が目立ちすぎたようです。自説を展開する際にはいくつかの文献や資料をチェックした上で実証的に論を展開する必要があるが、その点がやや弱かったと思いました。

奥村さんはエコ活動への疑問はいいが、テレビ番組からの影響だけで考えをまとめるのはやや性急過ぎます。テレビでの印象とともにやはり文献や新聞等の資料を調べ、テレビでの主張の正当性を検証する必要があったのではないのでしょうか。一つの意見に簡単に左右されてはいないか、という疑問が残りました。でも常識に捉われず、自由な発想で考えることはとてもよいことです。

今年は応募が少なく、最終選考に残ったのは4点でした。論説はやや難しいという印象があるかもしれませんが、敢えてその壁に挑戦する若い心意気の出現が待たれます。来年は多くの応募があるよう期待しています。